

平成24年4月17日

報道機関各位

公益財団法人東北活性化研究センター  
「南三陸町における震災復興・再生に向けた観光振興方策策定プロジェクト」  
の調査結果（概要）について

公益財団法人東北活性化研究センター（会長：高橋宏明・東北電力㈱会長）は、このほど、「南三陸町における震災復興・再生に向けた観光振興方策策定調査」について報告書を取りまとめましたのでお知らせいたします。

当センターでは、東北の自治体や営利を主たる目的としない団体（観光協会、商工団体、NPO、産業関連団体など）が主体となるプロジェクトで、東北の地域活性化にとって先導性や公共性が高く、かつ地域への波及効果が大きい案件に対し、実施主体からの支援要請に基づき、企画・立ち上げのための調査や各種ノウハウ・情報の提供等の支援・協力を行っております。

本プロジェクトは、宮城県本吉郡南三陸町（以下、南三陸町）より支援要請を受け、有識者、観光関連団体等にヒアリング調査するなどして、調査・検討をおこなってきたものです。

南三陸町では、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により甚大な被害を受けましたが、震災翌月の平成23年4月には復興市を開催する等、復興に向けた取り組みを早い段階から行っておりました。

本プロジェクトでは、こうした現状を踏まえ、今後の同町の観光振興方策策定のための調査を行い、震災からの復興・再生の一助とするため、当センターが支援・協力してきたものです。

本プロジェクトの調査結果概要については、別添資料のとおりです。

以 上

<添付資料>

- ・ 調査結果の概要

【お問い合わせ先】

公益財団法人東北活性化研究センター（担当：鈴木）

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10

TEL：022-222-3357 FAX：022-225-0082

URL：http://www.kasseiken.jp

## 「南三陸町における震災復興・再生に向けた観光振興方策策定プロジェクト」 の調査結果概要について

### 1. 調査の趣旨

南三陸町では、平成23年3月11日に発生した東日本大震災による地震と津波により、町の主力産業である水産漁業関連施設や漁船を流され、商店や公共施設などにも壊滅的な被害を受けた。

本プロジェクトでは、同町が震災前まで取り組んできた観光まちづくりの実績を踏まえ、震災後の観光振興について、即効性のある展開方策と持続可能な戦略の立案・実践を通して、町の復興・再生に資するために、本調査を行った。

### 2. 南三陸町の現状と諸課題

震災から1年経過した現在も、町内の多くの会社や商店は未だに生産・営業を再開できず、地域の雇用状況は大幅に悪化している。加えて、広範囲にわたり地盤沈下した土地のかさ上げに膨大な予算と時間を要するなど、町民生活の立て直しや地域経済の再生にはさまざまな課題が山積している。このような状態が長引くことで、町外への人口の流出が懸念されている。

また、同町では震災後、多数の町民が仮設住宅での避難生活を続ける中、失業に加え、生活不活発病※1や孤独死など、新たな問題が浮かび上がってきている。それに加え、地域インフラや産業の復旧・復興面においても、さまざまな克服すべき課題や障害が立ちはだかっている。

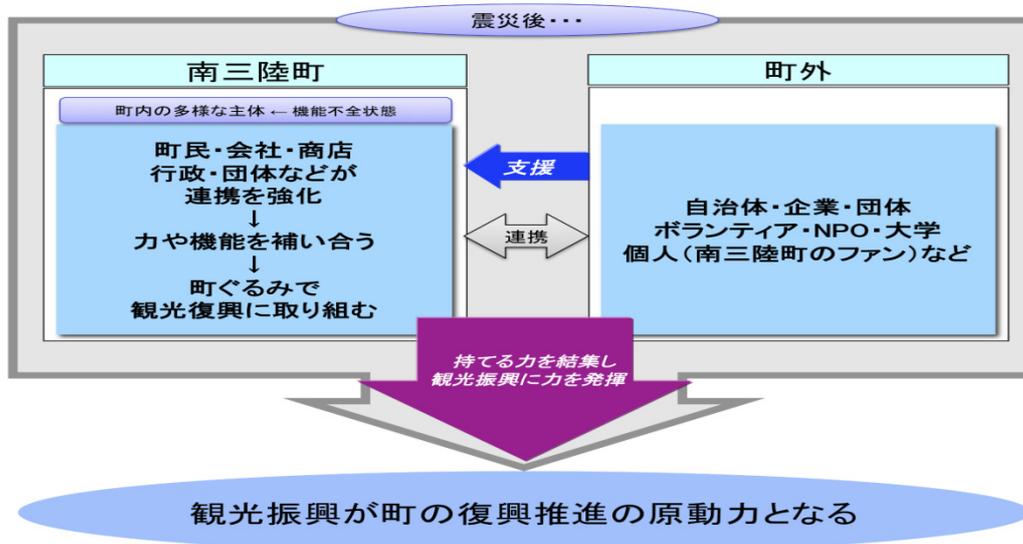
※1 生活が不活発なことが原因で、心身の機能のほとんど全てが低下することで、学術的には廃用症候群という。(出所：国立長寿医療研究センター資料)

### 3. 観光振興が復興推進の原動力となる

観光は関係業種や経営主体が多岐にわたり、裾野が広く、地域の産業振興、雇用の増加など、経済波及効果が高く、地域の総合産業である。震災前から観光まちづくりを進め、成果を上げてきた南三陸町においては、震災後、観光産業の復活を通じて、地域産業の復興や生活者の再生支援にいかにか寄与できるか、そして、官民の別なく各々の“持てる力を結集させる”ことができるかが、復興・再生の道筋を考える上で大変重要である。

主体（主役）は町民一人ひとりであるが、特定の関係者だけが努力するというのではなく、行政、団体、会社や商店など、町内の多様な主体が連携を強化し、持てる力を発揮することが大切である。同時に町外の自治体や企業、団体、ボランティア、NPO、大学や研究機関などを巻き込み、町内外の力を観光復興に向けて結集することが、復興推進の原動力となる。

(観光振興が復興推進の原動力となるイメージ図)



#### 4. 今後の展開方策の重点目標とステップ

今回の調査では、「震災復興・再生にはスピードが勝負である」という認識の下、次の3点を今後の展開方策の重点目標として位置付けた。

- (1) ビジョンを明確にし、観光振興策を再構築するとともに、復興の歩みに応じた観光の在り方を明らかにする。
- (2) 観光産業の復活を通じて、地域産業の復興や生活者の再生支援に寄与する。
- (3) 持続的な観光振興を図るため、本格的な観光を見据えながら、行政・民間・町民の連携・協働体制の強化を図る。

以上の重点目標に基づき、ステップごとに今後の展開を図っていくことが必要であり、当面は町の復旧・復興・再生のスピードアップに直結する施策として、町のシンボルイベントである「福興市」※2 や、震災や防災への取り組みを次世代に伝える「学びのプログラム」※3 を継続発展させていくことが重要である。

なお、今後の展開イメージは以下のとおり。

※2 震災後の平成23年4月29日を皮切りに、毎月最終日曜日に定期開催されている商業イベント

※3 学生・企業を対象とした、被災地再生のプロセスを学ぶプログラム

(ステップごとの今後の展開)

ステップ	町内各主体の動き		
	町民・民間	観光協会	行政
ステップ1 ＜構築期＞	① 地域資源の再生・復興 ② 南三陸町応援団会員募集の企画など ③ 観光協会のサテライト機能の代行などの検討・実施	① 地域資源の再生・復興支援と活用方策の検討 ② 「学びのプログラム」企画・商品化 ③ 平泉との連携観光強化 ④ 全国の大学などへ営業 ⑤ 南三陸町応援団会員募集	① 地域資源の再生・復興支援など ② 協会のマンパワー補強等の支援など ③ 南三陸町応援団会員募集への支援など
ステップ2 ＜推進期＞	① 「南三陸スピリット」の研修会の実施など ② プルーツリズムなどの受入態勢の整備 ③ 「学びのプログラム」のバージョンアップに伴う「語り部ガイド」の研修内容の充実と研修機会の増大	① 「南三陸スピリット」五輪書作成・配布・研修など ② 体験・体感観光メニューなどの充実・プログラム化とプルーツリズムなどの企画・商品化・販売・実施 ③ “語り部ガイド”の研修内容の充実と研修機会の増大への支援 ④ 南三陸町応援団会員向けツアー企画・販売・実施	① 「南三陸スピリット」支援方策立案・実施 ② 観光協会が取り組む左記事業への支援
ステップ3 ＜展開期＞	① 南三陸町応援団会員ツアーとの連携強化など ② 中心市街地へのレストランやカフェの設置検討など ③ インバウンド営業強化	① 「探求する旅」への移行を目指した「学びのプログラム」のバージョンアップ ② 南三陸町応援団インバウンドツアーの企画・販売 ③ 平泉との連携観光強化	観光協会が取り組む左記事業への支援

(本格的な観光マインドの復活へ)

(参考)「南三陸町における震災復興・再生に向けた観光振興方策策定調査」懇談会名簿

(敬称略、順不同)

氏名	所属・役職
羽田 耕治	横浜商科大学 教授
千葉千枝子	東京成徳短期大学 非常勤講師
熊谷 信義	宮城県経済商工観光部 参与
佐藤 通	南三陸町産業振興課長
千葉 啓	南三陸町産業振興課 商工・観光振興係 主幹兼係長
宮川 舞	南三陸町産業振興課 商工・観光振興係 主査
今野 俊宏	(株)河北新報社 メディアセンター長
佐藤 一彦	(株)JTB 東北 法人営業仙台支店 営業二課長・みやぎ観光復興支援センター長